

平成 31 年 2 月 22 日

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

プラスチック容器事業部

プラスチック製容器包装ベールの品質調査

1. 平成 31 年度ベール調査に関する変更点

(1) 市町村への調査日程通知を 1 週間前から 2 週間前に変更

ベール品質調査の日程通知について、調査立会を希望するが、1 週間前通知では調整が難しいという市町村からのご意見があり、市町村へのベール調査日程通知を調査日より 2 週間前通知とすることとします。なお、調査対象ベールの保管期間が長くなりますが、ご協力をお願いします。

(2) 調査用取り置きベール数の変更

従来、ベール調査用の取り置きベール数を大ベール 5 個・小ベール 20 個としておりましたが、再生処理事業者の負担軽減のために、大ベール 4 個・小ベール 20 個に変更します。

(3) 評価対象ベール数の変更

従来、評価対象の大ベール数は 3 個から 20 k g ずつサンプリングし、合計 60 k g としていましたが、調査時間短縮のため、大ベール 2 個からそれぞれ 30 k g サンプリングし、合計 60 k g とすることとします。小ベールについては、従来通りとします。

(4) ベール寸法測定の廃止

調査時間短縮のため、平成 31 年度よりベール寸法測定を廃止します。なお、寸法情報は、入札条件リストに記載されております。

(5) 未破袋の中の小袋の判定

従来、「未破袋の袋から出てきた小袋については、未破袋」と判定しておりましたが、「指定収集袋、市販のごみ袋と同等の大きさ以上の袋の中から出てきた小袋については、未破袋。」に変更します。変更理由は、未破袋の袋から出てきた小袋の検出率が低下しており、改善傾向がみられるためです。

(6) 3 回連続、破袋度 B ランクだった場合の対応

破袋度が 3 回連続 B ランクであった場合は、「改善計画書の提出及び再調査を実施する場合がある」との記載を削除しました。

(7) 破袋度 D ランクだった場合の対応

破袋度 D ランクだった場合、原則、再調査を実施しますが、「改善計画書や中間処理施設での処理状況等を総合的に判断し、改善が図られると協会が判断した場合、再調査を行わない場合がある」としました。

また、破袋度が 3 回連続 D ランクとなった場合、引き取り申込をお断りするという記載を削除しました。

(8) リチウムイオン電池が検出された場合の対応

禁忌品の中でも発火の危険性が非常に高い「リチウムイオン電池」「リチウムイオン電池を含む電子機器」が検出された場合は、協会より改善計画の立案と実行をお願いする場合があります。

2. ベール品質調査は再商品化実施契約事項

ベール品質調査は再商品化実施契約(分別収集品の品質改善)第11条3項に定められている契約事項です。協会の定める「プラスチック製容器包装ベールの品質評価方法」(資料14参考資料①)に従い、実施スケジュールの調整、作業実施者を確保のうえ、ベール品質調査を実施願います。

3. ベール品質調査日程に関する厳守事項

市町村への品質調査実施日の通知は、実施日の2週間前に品質調査委託先であるテックプロジェクトサービス(株)より市町村に通知します。市町村・一部事務組合、市町村・一部事務組合から委託を受けた中間処理施設（民間企業を含む）等の市町村関係者にベール品質調査日程を通知することは厳禁です。特に市町村による現地確認について、品質調査日と同一日を希望された場合、品質調査日の2週間前以前に通知しないよう注意してください。ベール品質調査日程の情報漏洩が発覚した場合、措置の対象となります。

4. 再調査及び特別調査

1回目の調査で、「収集袋の破袋度評価」及び「容器包装比率評価」がDランクであった場合には、原則、1～3月中に再調査を実施します。ただし、「収集袋の破袋度評価」がDランクであった場合については、改善計画書や中間処理施設の状況を総合的に判断し改善が図られると協会が判断した場合、再調査を行わない場合があります。

また、情報漏洩の疑い、危険品の混入が改善されない場合等は“特別調査”を実施する場合がありますので、1回目調査及び再調査と同様、ご協力をお願いします。

5. ベール品質調査に関する要請事項

(1) 実施スケジュールの調整

品質調査委託先との調査日程の調整が行われますが、1日の調査件数は昨年度と同様に最大で3件としますので対応ください。

(2) 評価作業時間、作業人員

① 評価作業時間

品質調査員との事前打合せ、市町村職員への説明、評価作業、結果の説明、市町村職員へのヒアリング等を含めて、トータルで約2時間を標準と見込みます。

② 作業人員

上記標準作業時間に対応出来る人員を配置願います。

→記録係を含めて4～6名程度が望ましい。

③ 作業経験が浅い人員への研修

調査開始にあたり、選別作業経験が浅い人員には、DVD「プラスチック製容器包装ビデオ出前講座」等を用いて研修を行い、容器包装の対象か否か、破袋の基準等を確認しておいてください。

(3) 調査対象ベールの保管

① 取り置きベール数

公正性の意味から、原則として調査対象の市町村の取り置きベール数は、大ベールで4個以上、小ベールで20個以上とします。但し、再生処理事業者の諸事情により確保が困難であると判断された場合は、事前に品質調査委託先へ申し出ることにより確保数の調整を可能とします。

大/小ベールの大きさは目安として以下とする。

- ・大ベール：50kg程度を超えるもの（200～300kg程度）（1×1×1m程度）
- ・小ベール：50kg未満程度（0.5×0.5×0.5m程度）

② ベール入荷日

通知日（調査実施日の2週間前）より以前に入荷した最新のベールを調査対象とし、ベール引取日から4週間以内の調査を目安とします。但し、事前に協会が了承している場合は、この限りでは無く調査を実施します。

③ 保管場所

指定可燃物貯蔵届出書にて届出されている屋内スペースに保管してください。止むを得ず屋外に保管する場合には小容器類の飛散防止対策及び雨水対策をしてください。

④ 保管状況

品質調査員は調査当日に取り置きされているベールの中から無作為に必要個数をサンプリングします。無作為にサンプリング出来るように、他のベールとの間隔を空けてください。

⑤ ベール重量の事前測定

調査時間短縮のため、大ベールのみ、4個分のベール重量を事前に測定し、ベールに表示をお願いします。小ベールについては調査時に測定しますので、事前測定不要です。

⑥ 表示

対象ベールの市町村名、保管施設名、入荷数量・個数、保管数量・個数、入荷日、ベール重量（大ベールのみ）、の看板等による明示をお願いします。

（4）調査対象ベールの区分け

引取り対象市町村が複数あり、その保管施設が同一の場合、混載で引取りを行う場合がありますが、市町村ごとのベールの区分けを明確にしてください。

（5）調査対象ベールからのサンプルの切り取り

- ・サンプル表面にベール圧縮時やその後の外部環境により汚れが見られる場合は、ベール圧縮方向外側の表面部分を取り除き、内側から切り取ってください。
- ・サンプル表面にベール圧縮時やその後の外部環境により汚れが見られない場合は、表面部分をサンプル対象としてください。

（6）調査対象ベールが特殊であった場合

一部の市町村では、指定保管施設で異物を除去した後、準備した複数の大袋に詰め替えてベール化している又はそれに類する対応をしています。そのような状況が確認された場合は1回目調査を実施する前に、品質調査委託先へ連絡ください。

（7）データの記録及び送信

貴社の評価データの記録担当者に上記の「プラスチック製容器包装ベールの品質評価方法」に記載されている以下の品質評価シートに評価データ等を記入して頂きます。

品質調査員は独自に評価データを記録しますが、評価作業終了後に貴社記録担当者と相互にデータの確認を行います。データの相互確認を行った後に、貴社にて評価データをREINSに入力して頂きます。

◆REINSのベール品質調査結果入力画面において、以下の変更を行いました。

①入力項目の一部削減

REINS 入力作業の低減のため、入力項目を一部削除しました。

②一時保存ボタンの追加

ベール品質調査前に、立会者情報等を前もって REINS 入力しておきたいとの要望があったため、「一時保存」ボタンを追加しました。なお、すべての調査結果の入力後、最終的には「登録」ボタンを押して確定となりますので、ご注意ください。一時保存ボタンについては、オンラインマニュアルを参照ください。

REINS からの OUTPUT は PDF ファイルとし、協会ベール品質調査委託先であるテックプロジェクトサービス(株)の以下宛先に PDF ファイル添付のうえ、メール送信ください。

宛先	テックプロジェクトサービス株式会社 環境・装置本部 コンサルティンググループ 吉永
メールアドレス	yuki.yoshinaga@toyo-eng.com

(8) 写真記録

デジタルカメラを準備して頂き「プラスチック製容器包装ベールの品質評価方法」に準じて「選択したベール」、分類標示板毎に分類された「異物」等をデジタルカメラで撮影してください。

(9) 品質調査の完全実施

市町村への拠出金制度の施行もあり、引渡し量が少量で年に 1~2 回程度しか引取りが無い場合においても、品質調査は実施しなければなりません。

引渡し日が決まり次第、速やかに品質調査委託先に連絡し、調査実施日の調整を行ってください。調査実施日については出来る限り柔軟に対応します。

6. ベール品質評価実施の環境・機器等

環境・機器等については、資料 14 参考資料③「プラスチック製容器包装ベール品質評価実施の環境・機器等について」を参照してください。

7. ベール品質調査に関する作業負荷軽減策

品質調査実施件数が多い等、ベール品質調査に関する作業負荷軽減策の対象となる事業者の方には、協会より個別に連絡させていただきますので、ご対応をお願いします。

8. 市町村向け報告書式

(1) 禁忌品混入防止のお願い

プラスチック製容器包装の中にリチウムイオン電池等の電池類、注射針等の禁忌品の混入が原因で発煙・発火トラブル、針刺し事故などが発生した場合、別添 excel 書式【プラスチック製容器包装 禁忌品混入防止のお願い】にて市町村に改善要請を行ってください。市町村に送付した書類は協会にも報告ください。なお、発煙状態でスプリンクラー・消火器等で消火出来た場合でも、この報告書を提出してください。

【市町村ベールに混入した発火物が原因で、再生処理事業者で発火・発煙事故が発生した場合の対応】

- ・ベール調査でリチウムイオン電池が検出されない場合であっても、再生処理事業者において「リチウムイオン電池」及び「リチウムイオン電池を含む電子機器」が原因による発火事故が複数回発生した場合、改善計画の立案と実行を市町村に要請します。
- ・改善が図られないと判断される場合、環境省へ報告も含め、今後の対応を決定します。

(2) ベール品質改善のお願い

異物混入が多い、未破袋が多い等、ベール品質に問題がある場合には、別添 excel 書式【プラスチック製容器包装ベール品質改善のお願い】にて市町村に改善要請を行ってください。市町村に送付した書式は書類にも報告ください。

報告先： shimizu@jcpra.or.jp

報告書式： excel ファイル または PDF ファイル

9. その他

再生処理事業者の皆さんがお困りになられている案件がありましたら、プラスチック容器事業部の雨谷・清水・高崎までお気軽にご相談ください。

円滑な再商品化に寄与出来るよう、課題がある市町村ごとに可能な限り対応します。

以上

制定：平成 13 年 11 月 30 日
最終改正：平成 31 年 2 月 22 日
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
プラスチック容器事業部

プラスチック製容器包装ベールの品質評価方法

1. 評価対象及び評価の実施

(1) 評価対象

- ・全ての指定保管施設のプラスチック製分別基準適合物（ベール）を対象とする。

(2) 実施者

- ・作業は再生処理事業者主体で実施する。
- ・協会が業務委託する品質調査委託先（以下「協会委託先」という。）の品質調査員が立会う。

(3) 評価者

- ・協会委託先の品質調査員（以下「品質調査員」という。）が評価する。

(4) 実施場所

- ・再生処理事業者の再生処理工場で実施する。

(5) 実施時期

- ・1回目 4月～11月
- ・再調査 1月～3月

※1回目の品質調査にて、容器包装比率判定あるいは破袋度判定がDランクであった場合、再調査を実施する。

(6) 品質調査スケジュール管理

- ・協会委託先が再生処理事業者と調整し、品質調査スケジュール案を協会に提示する。
- ・協会（プラスチック容器事業部）の了承後、品質調査を開始する。

(7) 市町村又は一部事務組合（以下「市町村」という）の立会い

- ・市町村担当者の立会いは、1回目は任意とし、再調査時は要請することとする。
- ・中間処理施設（民間委託先を含む）の担当者の立会いも可とする。
- ・協会委託先より、品質調査実施の2週間前に実施日を通知する。

(8) 評価記録の提出先及び保管

- ・品質評価記録書を、再生処理事業者及び品質調査員が相互に記録し、照合する。
- ・品質調査員及び再生処理事業者は相互確認のため以下の写真を撮影する。

- ① ベールの保管状況
- ② 選択したベールの全景
- ③ ベールを解体し床に広げた状態
- ④ 未破袋の袋を集めた状態
- ⑤ 分別基準適合物以外の異物が種類ごとに分別された状態
- ⑥ 禁忌品

- ・再生処理事業者は、品質調査終了後、品質調査結果を速やかに REINS に入力する。
- ・REINS に入力後、出力した「ベール品質評価記録書」を、再生処理事業者及び品質調査員が相互に品質1評価記録書と照合する。
- ・出力された「ベール品質評価記録書」を正とし、品質調査員は協会へ報告する。なお、品質調査結果の

確認のため、再生処理事業者は出力された「ベール品質評価記録書」をPDFファイルで協会委託先宛にメール送信する。

- ・市町村への品質調査結果の連絡（ベール品質評価記録書、写真等）は、協会委託先が実施する。

(9) 記録の開示

この評価結果を、品質調査実施者は協会の許可なく当該市町村以外の者に開示してはならない。協会は、保管施設ごとの調査結果をホームページで公表する。

2. 評価項目と評価方法

品質評価項目は、「収集袋の破袋度評価」「容器包装比率評価」「禁忌品の有無評価」の3項目とする。

評価方法は、あらかじめ保管してあるベール（大ベールは4個以上、小ベールは20個以上）のうち、取り出したサンプルベールの重量、結束材・梱包状態の種類を品質評価記録書に記録する。

(1) ベール重量、結束材・梱包状態の確認

① サンプル

- ・大ベールは、あらかじめ保管してあるベールのうち、2個を使用する。
- ・小ベールは、あらかじめ保管してあるベールのうち、60kgを超える必要個数を使用する。

② ベール重量測定

- ・保管しているベールの重量を計量し、kg単位の整数で記録する。
- ・ベール重量は、大ベールのみ4個を事前計量し、その重量をベールに表示する。
- ・小ベールについては事前計量を行わず、品質調査時に重量を計量する。

③ 梱包状態の確認（ベールの結束材・バンド種類等）

- ・切り取りサンプル用に選択したベールを使用する。
- ・ベールが結束材によって結束されている場合、結束材の種類（結束材と併せてフィルム等の包装材も使用されている場合は、包装材の種類等を含む。）、見掛けのバンド本数を記録する。
- ・ベールがフィルム等によって梱包され、結束材が使用されていない場合は、種類記録欄には「フィルム巻き」等と記録し、本数の記録欄には「0」を記録する。

(2) 「収集袋の破袋度評価」

① 引き取り品質ガイドライン記載内容

- ・ベールに求められる性状として収集袋の破袋がある。
- ・分別収集に利用される収集袋を破袋し、収集袋から収集物を抜き出し異物を取り除き、また容器包装リサイクル法の対象物ではない収集袋（指定収集袋、市販のごみ袋）が除かれていることが求められる。

② サンプル

- ・評価対象とする2個のベールから、1個30kg以上ずつ取り出し重量を測定（kg単位小数点以下2桁まで記録）し、サンプル合計が60kg～80kgとなるようにし床に広げる。
※2個から取り出したサンプル重量を評価対象重量とする。
※1個20kg未満の小ベールは、合計60kg～80kgとなるように4個以上をサンプルとする。

③ 評価方法

- ・収集袋、市販のごみ袋が破袋されずにベール化されている状態を見る。
- ・未破袋の袋個数を数え、数を評価対象重量で割り込んだ（個数/kg）値を算出する。

$$\text{未破袋の袋個数(個)} \div \text{評価対象重量(kg)} = \text{未破袋の袋混入率(個/kg)}$$

※小数点第2位以下を切り捨て

- ・未破袋の袋個数を REINS に入力すれば評価ランクは下表の基準により自動的に計算される。

未破袋の袋混入率（個/kg）	評価ランク
0.2 未満	A ランク
0.2 以上 0.4 未満	B ランク
0.4 以上	D ランク

注) 未破袋の中身は全て取り出し異物の判定を行う。

④未破袋の判定基準

ア. 未破袋とは、こぶし大程度の大きさ以上で、次の状態をいう。

- ・袋に裂け目が無く袋の口が閉じられ、袋内の内容物が容易に確認できないもの。
- ・袋に裂け目が有っても中身が残っているもの（袋の口が閉じられていないものも、裂け目が有ると見なされる）。
- ・指定収集袋及び市販のごみ袋が未破袋の状態であった場合、裂け目の有無に係わらず、未破袋の中から小袋が出てきた場合は、小袋も未破袋と見なす。

【未破袋とは見なさない事例】

イ. 袋の内容物が容易に確認できる下記の事例は、未破袋とは見なさない。

- ・PETボトルのキャップだけが袋に入れていると容易に判別できる場合。
- ・菓の包装材だけが袋に入れていると容易に判別できる場合。
- ・コンビニ弁当などの容器が1個程度袋に包まれている場合。
- ・上記のほかに一目で袋の内容物が確認できる場合。

(3)「容器包装比率評価」

①引き取り品質ガイドライン記載内容

ベールの品質基準では、分別基準適合物であるプラスチック製容器包装が90%以上（重量比）であることが求められる。

②サンプル

- ・破袋度評価に使用した床に広げた状態の60kg～80kgのサンプルを評価する。
- ・破袋度評価において未破袋と判定された袋も、破袋し中身を取り出し評価する。

③評価方法

- ・重量は上記の60kg～80kg（kg単位小数点以下2桁まで記録）とする。
- ・分別基準適合物以外の異物（汚れの付着したプラスチック製容器包装、指定収集袋及び市販のごみ袋、容り法でPETボトルに分類されるPETボトル（以下「PET区分の容器」という。）、他素材の容器包装、容器包装以外のプラスチック製品、事業系のプラスチック製容器包装（以下「事業系廃棄物」という。）、その他の異物、禁忌品）を取り出し、それぞれの重量をkg単位（小数点以下2桁まで記録）で測定する。
- ・評価対象重量から異物の総重量を差し引き、分別基準適合物であるプラスチック製容器包装の重量を算出する。

$$(\text{評価対象重量} - \text{異物合計重量}) (\text{kg}) \div \text{評価対象重量} (\text{kg}) \times 100 = \text{容器包装比率} (\%)$$

※小数点第3位を四捨五入

容器包装比率	評価ランク
90%以上	Aランク
85%以上 90%未満	Bランク
85%未満	Dランク

④異物の判定基準

ア. 汚れの付着したプラスチック製容器包装

容器包装が中身の付着（食品残渣等）でベトついている、又は、複数の容器包装が中身により固まっている（もらい汚れ）状態のプラスチック製容器包装、土砂や水分（雫が垂れている）、カビ等汚れの付着したプラスチック製容器包装。

イ. 指定収集袋及び市販のごみ袋

次の袋を指定収集袋及び市販のごみ袋とする。

- ・品質調査対象の市町村・一部事務組合（一部事務組合等の構成市町村を含む。）又は他の市町村の名称が表示されている指定収集袋、市販のごみ袋。
- ・指定収集袋、市販のごみ袋にプラマークが表示されている場合であっても異物とする。
- ・新聞販売店が購読契約を取り交わした家庭にサービスで提供する、新聞社名が表示されているごみ袋は、市販のごみ袋と見なす。

ウ. P E T区分の容器

- a. P E T製の容器（ボトル）のラベル又はボトル本体に下記の識別表示（P E Tリサイクルマーク）が表示又は刻印されている容器を、P E T区分の容器とする。



識別表示（P E Tリサイクルマーク）が表示されているP E Tボトルは「指定P E Tボトル」と呼ばれ、省令で以下の中身が入ったP E Tボトルに限定されている。

「清涼飲料、果汁飲料、酒類（みりんを含む）、乳飲料等、しょうゆ、しょうゆ加工品（めんつゆ等）、アルコール発酵調味料（料理酒を含む）、みりん風調味料、食酢、調味酢、ドレッシングタイプ調味料（ノンオイルドレッシング等）」

b. ラベルが剥がれた状態のP E T製の容器

- ・清涼飲料用等のP E Tボトルは、キャップ部、ボトル側面等に賞味期限が表示されている場合がある。そのため、賞味期限表示がある場合はP E T区分の容器とする。（参考：しょうゆ等調味料の場合、賞味期限はラベルに表示されている。）
- ・賞味期限表示が無い場合で、ラベルの欠損、容器の変形等によりP E Tリサイクルマークが確認できない場合には、清涼飲料、酒類、しょうゆ等の容器であることが判断できる場合はP E T区分の容器とする。

c. 上記に該当しない容器は全てプラスチック製容器包装とする。

エ. 他素材の容器包装（金属、ガラス、紙製等の容器包装）

- ・缶、ガラスびん、紙製の容器包装、ダンボール等

オ. 容器包装以外のプラスチック製品

- ・容器又は包装に該当しないプラスチック製品。
例：バケツ、洗面器、カセットテープ、おもちゃ、等の容器包装以外のプラスチック製品。
- ・結束バンドは、プラマークが表示されている場合であっても異物とする。

カ. 事業系のプラスチック製容器包装

事業系のプラスチック製容器包装の例

- ・事業系のプラスチック製容器包装と判定するためには、一般家庭からではなく事業所から排出されたと見なせる根拠が必要である。事業系のプラスチック製容器包装と見なせる事例を次のとおり示す。
 - 排出したと見なされる事業所・部署名が明示されているプラスチック製の容器包装。
例：宛名に事業所・部署名が記載されている部品・製品等の納入用のプラスチック製の容器包装類。
 - 通常家庭では使用されない業務用商品のプラスチック製の容器包装。
例：学校給食用の米袋、食品添加物の容器、農協マークの肥料袋。
 - 明らかに病院等医療機関から排出されたと見なせるプラスチック製の容器包装。
例：明らかに病院で入院患者に投薬されると見なせる患者名が明記されている治療薬、栄養剤等の容器包装が多数ある場合。
通常家庭からは排出されない大型の薬包装材。

キ. その他の異物

容器包装以外のガラス、金属、布、陶磁器、土砂、食物残渣、生ごみ、木屑、紙、皮、ゴム等の異物。

ク. 禁忌品

医療系廃棄物

- ・感染性の恐れのある、注射針、注射器、点滴セットのチューブ・針（輸液パック部分は除く）。
- 注）点滴セットのチューブに針が付いていてもいなくても医療系廃棄物とする。

危険品

- ガスライター（液体燃料が空の場合も危険品に該当する。）、ガスボンベ、スプレー缶（穴あきされている場合は他素材の容器包装とする。）、リチウムイオン電池及びリチウムイオン電池を含む電子機器、乾電池等発火の危険性のあるもの。
- 刃物、カミソリ、釘、鋸、ガラスの破片等怪我をする危険性のあるもの。

(4) 「禁忌品の有無評価」

- ・容器包装比率の評価で「医療系廃棄物の混入」及び「危険品の混入」の有無を確認。

① 評価方法

- ・ベール中に「医療系廃棄物」に該当するものが混入しているか評価する。
該当物が混入している場合は、品名と数量を記録する。
- ・ベール中に「危険品」に該当するものが混入しているか評価する。
該当物が混入している場合は、品名と数量を記録する。

3. 評価結果のランク判定

「収集袋の破袋度評価」「容器包装比率評価」「禁忌品の有無評価」について、それぞれ評価した結果を品

質評価記録書に記録し、評価表の結果を該当評価項目ごとにチェックすることにより、A、B、Dランクを判定する。判定は、「収集袋の破袋度評価」「容器包装比率評価」「禁忌品の有無評価」ごとにランク判定を行う。

(1) 「収集袋の破袋度評価」のランク判定

- ・ Aランク：0.2 個/k g 未満
- ・ Bランク：0.2 個/k g 以上、0.4 個/k g 未満
- ・ Dランク：0.4 個/k g 以上

(2) 「容器包装比率評価」のランク判定

- ・ Aランク：90%以上
- ・ Bランク：85%以上、90%未満
- ・ Dランク：85%未満

(3) 「禁忌品の有無評価」のランク判定

- ・ 危険品と医療系廃棄物の混入がなければAランク、いずれかあればDランク

4. 判定結果への対応

(1) 「収集袋の破袋度評価」のランク判定

① Aランク判定の場合

- ・ 再商品化に支障がないので、引き続き品質の維持をお願いする。

② Bランク判定の場合

- ・ 再商品化に支障が生じる場合があるので、Aランクを目指した品質向上をお願いする。

③ Dランク判定の場合

- ・ 協会より市町村に改善計画の立案と実行をお願いする。
- ・ 原則、再調査を実施する。

ただし、改善計画書や中間処理施設での処理状況等を総合的に判断し、改善が図られると協会が判断した場合、再調査を行わない場合がある。

<再調査でDランクとなった場合>

- ・ 「協会出前講座ーベール品質勉強会」の実施と、2ヶ月毎に「自主検査結果」の提出をお願いする。

(2) 「容器包装比率評価」のランク判定

① Aランク判定の場合

- ・ 再商品化に支障がないので、引き続き品質の維持をお願いする。

② Bランク判定の場合

- ・ 再商品化に支障が生じる場合があるので、Aランクを目指した品質向上をお願いする。
- ・ 平成28年度以降の1回目の品質調査において、3年連続Bランクとなった場合、改善計画の立案と実行をお願いし、場合によっては再調査を行う。

③ Dランク判定の場合

- ・ 著しく分別基準から外れているので、再商品化に支障をきたす。協会より市町村に改善計画の立案と実行をお願いする。
- ・ 改善の進捗を確認するため、再調査を行う。

<再調査でDランクとなった場合>

- ・ 「協会出前講座ーベール品質勉強会」の実施と、2ヶ月毎に「自主検査結果」の提出をお願いする。

- ・次年度の1回目の品質調査結果がDランクであった場合には、次々年度の引き取り申し込みをお断りすることとしつつ、品質改善の取組状況を総合的に判断し対応を決定する。

(3) 「禁忌品の有無評価」のランク判定

- ・Dランクの場合は、市町村に改善をお願いする。
- ・禁忌品の中でも発火の危険性が非常に高い「リチウムイオン電池」「リチウムイオン電池を含む電子機器」が検出された場合は、協会より改善計画の立案と実行をお願いする場合がある。

5. 特例対応

(1) 判定結果が異常値の場合の対応

品質調査の結果、容器包装比率が著しく低い等通常では考えられない評価結果が出た場合、再生処理事業者、市町村からの情報を総合的に判断し、再度の調査実施の可否を決定する。

(2) 再調査が実施できない場合の対応

1回目の品質調査の結果、容器包装比率判定がDランクであっても、引渡し量が少なく再調査の実施が年度内にできない場合は、再調査を実施する市町村との平等性の観点から、次年度の1回目の調査を再調査と見なして実施し、以降、通常の再調査でDランクであった場合に準じて対応する。

6. 引き取り拒否判定後の対応

万が一、引き取り申し込みをお断りするとこととなった場合は、再開へ向けて下記手順を進める。

- (1) 品質改善の取り組みを要請。
- (2) 再開へ向けての手順、スケジュール等の打ち合わせ。
- (3) 2ヶ月ごとに自主検査等の改善進捗状況報告。
- (4) 自主検査等で改善効果が認められた場合、確認のため「現地品質調査」を実施。
- (5) 「現地品質調査」の評価結果、改善取り組みの効果、継続性等を総合的に判断し、引き取り再開を決定する。

【特別調査の実施と判定結果への対応】

以下(1)の①～④に該当した場合、再調査とは別に「特別調査」を実施する。

(1) 特別調査対象

- ① 協会に「べール品質調査日程の情報漏洩に関する不適正行為通報」があった場合。
- ② 協会に再生処理事業者等からべール品質調査日程の情報漏洩に関する情報があった場合。
- ③ ベールの品質が引き取り品質ガイドラインを満たしていないという状況が確認され、日常的に引き取りを行っている再生処理事業者から該当する市町村に対して品質改善を再三要求するも、その要求後も品質の改善が見られず協会が必要であると判断した場合
- ④ 上記以外で、特別調査が必要と協会が判断した場合。

(2) 実施者：作業は再生処理事業者主体で実施する。

品質調査員が立会う。(環境省担当者、協会担当者が立会う場合がある。)

(3) 評価者：品質調査員が評価する。

(4) 実施場所：再生処理事業者の再生処理工場で実施する。

- (5) 実施時期：不定期
- (6) 特別調査実施日：協会委託先と再生処理事業者で調整する。
- (7) 市町村の立会い：原則、市町村担当者に特別調査の実施について通知せず、立会いも要請しない。
- (8) 評価方法：当該「プラスチック製容器包装ベールの品質評価方法」に準ずる。
- (9) 評価結果：原則、REINS 上に‘特別調査’として反映しない。保管施設毎の特別調査結果は、協会ホームページに掲載しないが、集計結果を公表する場合がある。
- (10) 市町村への対応：市町村・一部事務組合担当者へ連絡し、調査の経緯、評価結果を説明する。
協会の判断で、特別調査結果を市町村・一部事務組合担当者へ連絡しないことがある。
- (11) 判定結果への対応
 - ①1 回目調査と特別調査結果を比較し、著しく差があった場合、市町村に対して乖離理由報告書及び改善計画書の提出と改善の実行を要請する。
 - ②特別調査結果を環境省へ報告し、再商品化合理化拠出金の対応についての判断を仰ぐ。

以上

平成 31 年 3 月市町村へ発送予定文書

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
プラスチック容器事業部

平成 31 年度プラスチック製容器包装ベール品質調査に関する変更点

1. 市町村への調査日程通知を 1 週間前から 2 週間前に変更

ベール品質調査の日程通知について、調査立会を希望するが、1 週間前通知では調整が難しいという市町村からのご意見があり、市町村へのベール調査日程通知を調査日より 2 週間前通知とすることとします。

2. 調査用取り置きベール数の変更

従来、ベール調査用の取り置きベール数を大ベール 5 個・小ベール 20 個としておりましたが、調査時間短縮のために、大ベール 4 個・小ベール 20 個に変更します。

3. 評価対象ベール数の変更

従来、評価対象の大ベール数は 3 個から 20 k g ずつサンプリングし、合計 60 k g としていましたが、調査時間短縮のため、大ベール 2 個からそれぞれ 30 k g サンプリングし、合計 60 k g とすることとします。小ベールについては、従来通りとします。

4. ベール寸法測定の廃止

調査時間短縮のため、ベール寸法測定を廃止します。

5. 未破袋の中の小袋の判定

従来、「未破袋の袋から出てきた小袋については、未破袋」と判定しておりましたが、「指定収集袋、市販のごみ袋と同等の大きさ以上の袋の中から出てきた小袋については、未破袋。」に変更します。変更理由は、未破袋の袋から出てきた小袋の検出率が低下しており、改善傾向がみられるためです。

6. 収集袋の破袋度評価の変更

(1) 3 回連続、破袋度 B ランクだった場合の対応

「平成 28 年度以降の 1 回目の品質調査において、3 年連続同一項目で B ランクとなった場合、改善計画の立案と実行をお願いし、場合によっては再調査を行う。」としておりましたが、収集袋の破袋度評価に対しては、この対応を削除しました。(容器包装比率評価は従来通り)

(2) 破袋度 D ランクだった場合の対応

破袋度 D ランク判定の場合、原則、再調査を実施しますが、「改善計画書や中間処理施設での処理状況等を総合的に判断し、改善が図られると協会が判断した場合、再調査を行わない場合がある」としました。

7. リチウムイオン電池が検出された場合の対応

禁忌品の中でも発煙・発火の危険性が高い「リチウムイオン電池」「リチウムイオン電池を含む電子機器」が検出された場合は、協会より改善計画の立案と実行をお願いする場合があります。

ベール調査には直接関係ありませんが、以下の事項にも十分ご注意ください。

【市町村ベールに混入した発火物が原因で、再生処理事業者で発煙・発火事故が発生した場合の対応】

- ・ベール調査でリチウムイオン電池が検出されない場合であっても、再生処理事業者において発煙・発火事故が複数回発生した場合、改善計画の立案と実行をお願いします。
- ・改善が図られないと判断される場合、環境省へ報告も含め、今後の対応を決定します。

以上

平成 31 年 2 月 22 日
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
プラスチック容器事業部

プラスチック製容器包装ベール品質評価実施の 環境・機器等について

1. 評価実施場所及び環境

(1) 安全の確保

一連の評価作業に当たっては十分に安全を確保していただくようお願いします。特に評価実施場所の近くにはベールを高く積まないで下さい。

(2) 場所

屋内の乾いたコンクリートの床面の上とします。(ブルーシートを敷くと床面が汚れない等の利点があります) 床面が濡れている場合はブルーシートを敷いて下さい。

(3) 評価作業に必要なスペース (評価用サンプル 60kg を広げる面積)

分別作業に支障のないスペースを確保して下さい。

→概ね 8m×8m のスペースが望ましい

(4) 照度

分別作業に支障のない明るさを確保して下さい。

(5) 温度

分別作業に支障のない温度 (特に夏場) にご配慮下さい。

(6) 騒音

分別作業に支障のないよう、通常の会話が聞き取れる程度の場所を確保して下さい。

2. 評価に必要な計量器及び計測器、用具

(1) ベール重量測定用の秤

300kg 程度のベール重量が計れる台秤又は吊り秤を使用して計量します。

(2) 評価用サンプル切取り計量 (1 ベールから約 30 kg 以上、合計約 60 kg 以上) と異物計量用の秤

原則として 0.01kg (10g 単位) が読み取れる計量単位の秤 (デジタル式の秤が望ましい) を使用します。但し、20g までは許容します。

→評価用サンプルの切取りでは、数回で 30 kg 程度計量出来るよう最大計量値は 30~60 kg 程度で、且つ計量テーブルのサイズが充分であるものが望ましい。

(3) 評価用サンプル切取り用容器

フレコンバッグ、コンテナ、ポリバケツ等を準備して下さい。

なお、数回で 30 kg 程度計量出来る大きさの容器が望ましい。

(4) マーキング用具 (選択したベールの目印)

調査対象として選択した目印とするため、マーキング用のシール、テープ、ペイントスプレー等を準備して下さい。

3. 異物等の分類標示板

下記の表示板（A4サイズ相当）を事前に準備して下さい。

標示板を評価作業場所に置いて、評価用サンプルから取り出した異物を標示板の傍に置いた箱の中又は標示板の傍の床面に分類して置きます。

未破袋の袋 (裂目有り)	未破袋の袋 (裂目無し)	未破袋の袋から 出てきた小袋	汚れの付着した プラスチック製 容器包装	指定収集袋 及び 市販のごみ袋
PET区分の容 器	他素材容器包装 (金属、ガラス、 紙製等の容器包 装)	容器包装以外の プラスチック製 品等	事業系廃棄物	その他
医療系廃棄物	危険品			

* 異物計量後も集計の結果が確定するまで片付けずに、それぞれ一旦保存して下さい。

4. 容器包装比率評価作業に必要な異物等を入れる容器類

異物の重量を測定する際、各異物を箱、又はビニール袋等の容器に入れて秤量します。（異物の量が少ない場合は、容器に入れないで直接秤に載せて計ることは可能です）

(1) 箱、又はビニール袋等について

- 1) 計量は毎回同じ容器で計量するか、毎回風袋重量分の0（ゼロ）点調整をして下さい。
- 2) なるべく汚れの付着の少ないもの、破損が無いものを準備して下さい。

(2) 評価用サンプルから異物を取り除かれた「プラスチック製容器包装」を入れるフレコンバッグを2～4個を準備して下さい。

以上